



今回は今年より再構築されました【地域審判トレーニングセンター】における地域フィジカルコーチについての役割や今年1年かけて行われた研修の内容の一部を紹介します。

まず役割についてですが、【地域審判トレーニングセンター】では、主に3本の柱があります。

1つ目の柱は『審判員育成強化事業』です。対象審判員は、2級強化審判員や女性審判員、ユース審判員となりますが、フィジカルアプローチが役割となります。

2つ目の柱は『審判指導者トレーニングセンター』です。①チューターリング ②プラクティカル ③アセスメント ④IT ⑤フィジカルと5項目のスキルがある中で、⑤フィジカルの項目のスキルを審判員指導者に習得していただくために、講師として講習会を行う役割になります。

最後に3つ目の柱として『レフェリーアカデミー』があります。こちらは若手2級審判員を対象に2年間、4名の審判員が集中講義を受けていますが、この講義の、フィジカルの理論、トレーニング、フィットネステストを担当していきます。

これらのように大きく分けて3つの分野でフィジカルの対応するのが、地域フィジカルコーチの役割となります。

次に、今年行われたフィジカルコーチ研修会の一部をご紹介します。

先ほど、役割でも触れましたが、3つの柱の1つに『審判指導者トレーニング』があります。審判指導者に、フィジカル項目を指導できる役割を担うために、JFAで講習会を、2月から5月までの4か月間、



毎月2泊3日の日程で実施しています。9地域のフィジカルコーチが集まり、「Referee Fitness Test 総論」や「New FIFA Fitness Test 各論」を男女主審担当、副審担当ごとに確認しました。「Fitness Test set-up」として運営の在り方を実践しながら行いながら、ケーススタディについても多くの時間を割き、実施しました。また、各地域でテスト結果に誤差がないように集計・分析・評価についても確認仕合いました。フットサル&ビーチサッカー対象の審判員が行う「Fitness Test」も同様に行いました。

フィットネステスト以外にも「Endurance Training (スタミナ)」「Strength Training (筋力トレーニング)」「Speed Training (加速力)」「Agility & Quickness (敏捷性&俊敏性)」についての理論や実践を行いました。また講義だけでなく、グループに分かれて、グループワークやプレゼンテーションも実施し、地域でフィジカルコーチが審判指導者に講習会を行える

準備を行いました。

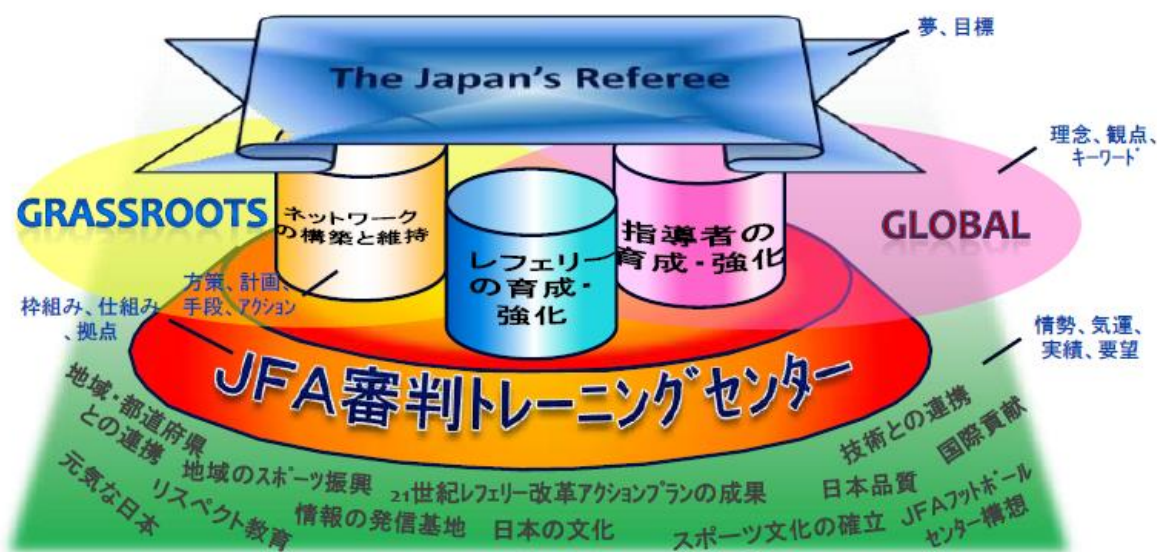
今年度フィジカルコーチ講習に行かれた岡田さんからの報告です。なかなか科学的にトレーニングをすることがなく、「5 km 走ろう」「1 時間走ろう」「電信柱間でスピードを変えよう」「坂道ダッシュ!!」などなど“我流”のトレーニングを積んでこられた方がほとんどだと思います。

しかし、今は岡田さんのように、日本サッカー協会のトレーニング講習会を受講し、専門的な知識を積んで地域で指導できるフィジカルコーチが作られました。フィジカルコーチの前には、フィットネスインストラクターという役割が作られ、主に地域でのフィットネストレーニングを担当するという一方で、1 期生 柳元良文 氏、2 期生 木下英則 氏、3 期生 岡田 渉 氏が養成され、その後岡田さんの報告にあるように、地域でのフィジカルの指導を担当するという流れからフィジカルコーチへと移行してきました。

今後は、審判イントレを通してフィジカルについても、専門的な知識を持った指導者がそれぞれの地区での指導を担当し、個々のフィジカル能力の向上を図れるよう理論から実践を伝授していただける日も近い将来です。

## JFA 審判トレーニングセンター

- The Japan's Referee (将来構想) を支える基盤 -



JFA 審判トレーニングセンターとは  
日本の審判文化を支える基盤となる仕組み(拠点)